

## 標準委員会 第2回基盤・応用技術専門部会議事録（案）

1. 日 時 2009年2月23日（月） 10：00～11：45
2. 場 所 航空会館204会議室
3. 出席者（敬称略）
  - （出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），越塚，岩崎，堺，市川，上野，石塚，大山，堀川，山内，石川，沼田（邦），笠原，宮坂（16名）
  - （代理出席委員）坂本（平山代理）（1名）
  - （欠席委員） 木下，堀田，西田，沼田（博），山口（5名）
  - （常時参加者）（0名）
  - （傍聴者） 佐田（電中研），田中（原電）（2名）
  - （事務局） 岡村

## 4. 配付資料

## 配付資料

- ATC2-1 前回議事録（案）
- ATC2-2 人事について（分科会主査，分科会委員の承認）
- ATC2-3-1 日本原子力学会標準「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」の改定について
- ATC2-3-2 日本原子力学会標準原子力施設の廃止措置の計画（改定版）（案）
- ATC2-4-1 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準の改定について
  - ATC2-4-2(1) 改定前後比較表
  - ATC2-4-2(2) コメント集約表
  - ATC2-4-2(3) 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準：200X（改定案）
- ATC2-5-1 基盤・応用技術専門部会の課題と展開（春の年会標準委員会セッション予稿）
- ATC2-5-2 基盤・応用技術専門部会における標準策定スケジュール（案）
- ATC2-6 放射線遮蔽分科会の活動状況について
- ATC2-7 有効高さ数値シミュレーションモデル分科会の活動状況について
- ATC2-8 シミュレーションの信頼性検討タスクについて（案）
- ATC2-9 標準委員会の活動状況
- ATC2-10 AESJ-SC-R002:2004 日本原子力学会標準「放射線遮へい計算のための線量換算係数：2004」正誤表

## 参考資料

- ATC2-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC2-参考2 春の年会プログラム

## 5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員22名中、代理委員を含めて17名が出席しており、決議に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

### (1) 前回議事録（案）の確認（ATC2-1）

前回議事録（案）については、事前に送付済みであり承認された。

### (2) 人事について（ATC2-2）

#### ①専門部会

人事案件なし。

#### ②分科会

##### ・主査の選任

北林興二主査（有効高さ数値モデル分科会）

審議の結果、主査選任について承認された。

##### ・委員退任の報告

#### a) 廃止措置分科会

中島委員

##### ・新委員の選任

#### a) 廃止措置分科会

三本木委員

審議の結果、新委員の選任について承認された。

### (3) 「原子力施設の廃止措置の計画（改定版）」の本報告（ATC2-3-1～2）

岡本主査より、資料ATC2-3-1～2を用いて説明が行われ、審議の結果一部修正の上書面投票に移行することが決議された。

主な質疑等

- ・ 附属書に、解説という表現が残っている。全体をチェックし、修正すること。
- ・ まえがきを追加すること。

### (4) 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準（改定案）」の本報告（ATC2-4-1～2）

沼田（邦）委員より、資料ATC2-3-1～2を用いて説明が行われ、審議の結果一部修正の上書面投票に移行することが決議された。

主な質疑は以下の通り。

- ・ フォーマットは、JIS Z 8301:2008に合うよう一部修正のこと。
- ・ 数値モデルは、本文ではどのような位置付けか。
  - 本標準では、数値モデルは建屋改造時に再度風洞実験をやるかどうかのスクリーニングのみ。限定的な利用になっている。
  - 数値モデルの基準は別に作成しているのか。
  - 別の標準として作成中。

(5) 活動計画について (ATC2-5-1, 2)

岡本部長より、資料ATC2-5-1を用いて本専門部会の活動方針について説明が行われた。さらに、事務局よりATC2-5-2を用いて今後の標準策定スケジュール（案）の説明が行われた。審議の結果、各委員は活動方針と標準策定スケジュール（案）のレビューを行い、コメントを事務局に送付することとした。また、春の年会で活動方針の説明を行うことから、活動中の各分科会に、プレゼン資料の作成を依頼した。

主な質疑は以下の通り。

- ・ 風洞実施基準と数値シミュレーションの標準は別々に作成している。活動方針の書きぶりは若干ニュアンスが違う。
  - 年会での説明に反映する。

(6) 放射線遮蔽分科会の活動状況 (ATC2-6) と「放射線遮へい計算のための線量換算係数：2004」正誤表 (ATC2-10)

放射線遮蔽分科会坂本副主査より、資料ATC2-6に基づき分科会の活動状況が報告された。また、発行済み標準の正誤表 (ATC2-10) について、内容の説明並びに公表の提案が行われた。審議の結果、正誤表の公表について標準委員会へ提案することが決議された。

(7) 有効高さ評価モデル分科会の活動状況 (ATC2-7)

有効高さ評価モデル分科会の分科会代表者である沼田（邦）委員より、資料ATC2-7に基づき分科会の活動状況が報告された。

(8) シミュレーションの信頼性検討タスクの活動状況 (ATC2-8)

シミュレーションの信頼性検討タスクの主査である越塚委員より、タスクの計画、委員の追加等について報告された。

主な質疑は以下の通り。

- ・ ベリフィケーションとバリデーションの線引きは。
  - バリデーションは実験との差異、ベリフィケーションは計算の誤差。
  - 分野によっても違う可能性がある。
  - 計算精度専門委員会の報告書では、同様なとりまとめとなっているようである。

(9) 標準委員会の活動状況について (ATC2-9)

- ・ 事務局より、ATC2-9に基づき、標準委員会の活動状況が報告された。

(10) 次回専門部会日程について

次回専門部会は、投票結果を踏まえて4/15の標準委員会前に開催するか決めることとした。

以上